科研シンポジウム 不在の演劇

現代演劇では、役を演じない・踊らない・非劇的なものといった不在の特徴がますます顕著になっています。これは従来の演劇観（劇的な展開・人物の特徴・踊りのヴィルトゥオーゾ性）とは異なる演劇を目指す試みとして捉えられるでしょう。「何かがない」「不足している」という演劇的事象がもたらす（不）可能性が模索されているのです。

この不在について欧米の演劇学・舞踊学では本格的な探究が進められています。ドイツではゲラルド・ジークムントが『不在のパフォーマティブな美学』（2006年）においてフォーサイス、ベル、ル・ロアなどの振付作品における踊らない舞踊がもたらす批判的潜在力を導き出しました。アメリカではアンドレ・レベッキがノンダンスの試みに、西洋文化が自明としているリプレゼンテーションの問題を問い直す意図を見出しています。

このような研究を踏まえ、本シンポジウムは日欧の舞台作品にみられる不在の特徴を探究します。具体的な事例として、演劇的な身体表現とは一線を画す身振りを模索するローラン・シェトゥアーヌの振付作品、役のアイデンティティを否定しながら演じ・踊るニードカンパニーのパフォーマンス、テーマや作品を予告しながらも、それらを故意に披露しないマレビトの会の上演を取り上げて、個々の事例にみられる具体的な特徴を明らかにします。各発表の後、参加者と幅広く議論を行い、演劇ならではの不在の美学を探りたいと考えています。

日時：2014年4月12日（土）13：00 - 17：00（途中休憩あり）

会場：慶應義塾大学三田キャンパス南館4階・会議室

司会：マルクス・ヨッホ（慶應義塾大学文学部訪問准教授）

パネリスト・発表題目：

針貝真理子（慶應義塾大学他非常勤講師）

Lobstershop als unmöglicher Ort der Zukunftsgemeinschaft（未来共同体の不可能な場としての『ロブスター・ショップ』）

平田栄一郎（慶應義塾大学教授）

Das Singulär-Bleiben in der Aufführung Record of a Journey to Antigone, and Its Performance von Marebito no kai（狐の滞留——マレビトの会『アンティゴネーへの旅の記録とその上演』を手掛かりに

ギュンター・ヘーグ（ライプツィヒ大学演劇学研究所教授・所長）

Aussetzung der Präsenz, Erfahrung des Abwesenden: Über das Zaudern im Theater Laurent Chétouanes（プレゼンスの休止、不在の経験——ローラン・シェトゥアーヌの演劇におけるためらいについて）

*入場無料、予約不要

*発表はドイツ語で行われます（通訳なし）

*お問い合わせ：慶應義塾大学文学部：平田研究室（e-mail: hirata@flet.keio.ac.jp）

*主催：科学研究費プロジェクト「日欧の現代演劇の比較論的考察」